

音楽教育専修 作曲分野 研究室のご紹介 教員：村田 昌己

教員についての基本情報

教員名	村田 昌己 准教授 (MASAKI Murata)
担当教科と分野	作曲、指揮、ソルフェージュ
研究分野	作曲法、編曲法、ソルフェージュ、管弦楽法、楽曲分析、マルチメディア研究 (DTM、音楽と映像) など
担当授業	音楽理論基礎・応用、ソルフェージュ、音楽理論演習、作曲法、指揮法、卒業研究、合奏、スタートアップ音楽、音楽科教材研究、音楽科実践研究、音楽科教育法、音楽 (小学校)、など
授業についての一言	音楽理論は音楽を正しく理解する技術の習得で、ソルフェージュは理論が正しく音楽として再現されているか確認する訓練。両者をしっかり学ぶことは、音楽を正しく理解し、正しく伝える力を養うことにつながります。
研究者データベース	https://kenkyushadb.lab.u-ryukyu.ac.jp/html/100000292_ja.html



研究の内容

作曲、編曲がメインです。ピアノ作品から室内楽、管弦楽、吹奏楽、DTM 作品など様々です。そのため、研究室では楽譜を書いたり、コンピュータを使って音楽制作をしています。ドラマや映画などのいわゆる「映像と音楽」についても研究しています。

「音楽教育と作曲分野の可能性」、「On-line 環境が可能とする音楽教育」にも力を入れています。

これまでに研究室で取り組まれた卒業研究の内容

卒業研究では作品創作、作曲・編曲技法を応用した教材開発、DTM 環境を取り入れた音楽教育など、創作と教育に関するテーマで研究して行きます。以下は卒業研究の一例です。

- ・オリジナルテキストを用いた合唱曲の作曲 (作品創作)
- ・音楽作り活動の指導技術を習得するための教材開発
～リトミックを応用したカスタマイズ教材を中心として～
- ・日本における賛美歌の変容
～「琉球語賛美歌」及び「子ども賛美歌」に着目して～

研究のキーワード

作曲、編曲、現代音楽、吹奏楽、管弦楽法、楽曲分析、ソルフェージュ、DTM、マルチメディアなど

研究室の様子

研究室では、主に3年生と4年生が卒業研究に向けそれぞれの目標に合わせて勉強しています。私の専門分野の研究を行う学生や、演奏研究に必要な楽曲分析等に関わる学生などが主となります。また、音楽科教員に必要とされる特に作曲・編曲技法に特化して学ぶ学生もいます。2022年度からは「PCを用いた音楽制作、音楽教育の教材開発」にも対応できるよう環境整備しています。そのため、研究室は機材やケーブルが多く、様々な機器からの発熱で常にジーンワリ暑いです。この発熱問題は早急に解決する必要があります。